



## 認知症の方とご家族のお話 高橋敏章さん Vol.3

若年性認知症の奥様と自宅で過ごされている高橋さんにお話を伺いました。

### 【在宅介護の限界】

「命にかかわること以外はかすり傷」の心構えと、妻が安心感を持てる声掛けに努めながら、在宅で介護を続けています。

最近は精神的に追い込まれてくじけそうになります。先日も、デイサービスのない日に、妻と対面で椅子に座りゆっくりしていました。日頃の疲れからか、お互いに居眠りをしていました。ドーン！と大きな音と妻のうめき声で目が覚めたときには、妻は椅子から落ちて右肩を強打していました。幸い打撲で済みましたが、在宅介護の限界を実感しました。

今、ショートステイや施設入所を少しずつ検討し始めています。



### 【こんなときは . . . .】

妻は時間、場所に関係なく突然奇声をあげ暴言を吐くことが多くなりました。その都度、肝を冷やし、周囲の人に不快な思いをさせていることに心苦しく思っています。受診は妻の待ち時間を最短にできるように、朝 1 番の予約や、予約のできないときは、娘と協力して、私が並び一番診察をゲットし、診察予定時間に合わせて娘が妻と一緒に来るなどの工夫をしています。

認知症カフェやつどいなどの外出では、認知症オレンジパートナーの方や周りの方々に温かい声掛けや思いやりのある見守りをいただくと安堵し心が救われます。もし、不安な様子を感じられる介護中の家族や本人を見かけたら、可能な範囲で構いませんお声掛けをしていただければ幸いです。

問い合わせ先:健康長寿課 介護予防係 (046-822-8135)